



平成 17年 3月期 第3四半期財務・業績の概況 (連結) 平成 17年 1月 28日

上場会社名 株式会社 ヤクルト本社

上場取引所 東証 大証

コード番号 2267

本社所在都道府県 東京都

(URL <http://www.yakult.co.jp>)

代表者 代表取締役社長 堀 澄也

問合せ先責任者 取締役 大坪 勝己

TEL ( 03 ) 3574 - 8960

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度に :有 税金費用の計算などについては、  
おける認識の方法との相違の有無 一部簡便的な方法を採用しています。

連結及び持分法の適用範囲の異動状況 :有 連結(新規) 1社

監査法人による監査は受けていません。

連結子会社の決算日は12月31日であり、当該四半期実績は1月1日～9月30日の実績となります。  
記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

2. 平成17年 3月期 第3四半期の業績概況(平成 16年 4月 1日 ~ 平成 16年 12月 31日)

(1)連結経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年 3月期第3四半期	187,403	3.5	14,662	14.3	20,544	10.7
16年 3月期第3四半期	181,078	-	12,824	-	18,555	-
(参考)16年 3月期	238,847		16,394		23,144	

	四半期(当期)純利益		1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後1株当 たり四半期(当期)純利益
	百万円	%	円 銭	円 銭
17年 3月期第3四半期	12,146	4.6	69.63	-
16年 3月期第3四半期	12,729	-	72.75	-
(参考)16年 3月期	15,083		85.27	-

(注)売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益におけるパーセント表示は対前年同四半期増減率

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、個人消費の伸びが鈍化したものの、輸出の増加による企業業績の回復や堅調な設備投資、雇用情勢の改善に支えられ、着実な景気回復基調が続く状況で推移しました。

このような状況のなかで、当社グループは、21世紀の健康のキーワードであり、かつ、事業の根幹であるプロバイオティクス(人の健康に有益な働きをする生きた微生物)の啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求するとともに、販売組織の拡充、新商品の研究開発や生産設備の整備に取り組み、業績の向上に努めました。

この結果、当第3四半期の連結売上高は187,403百万円(前年同期比3.5%増)となりました。利益面においては、連結経常利益は20,544百万円(前年同期比10.7%増)、連結第3四半期純利益は12,146百万円(前年同期比4.6%減)となりました。

## (2)連結財政状態

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	292,617	193,386	66.1	1,108.77
16年3月期第3四半期	285,211	181,494	63.6	1,040.28
(参考)16年3月期	286,388	182,766	63.8	1,047.78

## (3)連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	10,746	△ 19,436	△ 5,488	61,732
16年3月期第3四半期	—	—	—	—
(参考)16年3月期	18,098	△ 9,662	△ 8,375	75,648

(注)四半期業績の開示は当期から実施しているため、前年同四半期実績については記載していません。

## [財政状態(連結)の変動に関する定性的情報等]

当第3四半期連結会計期間末の総資産は292,617百万円、負債は借入金の返済による減少、連結財務諸表提出会社の確定給付型新企業年金制度への移行に伴う退職給付引当金の減少もあり84,037百万円となりました。

なお、株主資本は193,386百万円となり、株主資本比率は前連結会計年度末の63.8%から66.1%と2.3ポイント改善しました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権およびたな卸資産の増加、法人税等の支払額があったことにより10,746百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に固定資産および投資有価証券の取得による支出があったことにより△19,436百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入金返済による支出、配当金の支払額があったことにより△5,488百万円となりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の期末残高は61,732百万円となり、前連結会計年度末と比べて13,916百万円減少しました。

## (4)連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結子会社数64社 持分法適用非連結子会社数 0社 持分法適用関連会社数 3社

## 3. 17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通期	248,000	24,500	13,500

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 77円40銭

業績は概ね中間決算発表時の予想どおりに推移しており、業績予想の変更はありません。

(添付資料)

1. 要約連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第3四半期 (平成16年12月31日現在)		前連結会計年度 (平成16年 3月31日現在)		前第3四半期 (平成15年12月31日現在)	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
(資産の部)		%		%		%
I 流 動 資 産	141,459	48.3	149,745	52.3	151,648	53.2
現金及び預金	63,031		77,503		—	
受取手形及び売掛金	41,656		38,122		—	
たな卸資産	28,256		27,022		—	
その他の	8,515		7,098		—	
II 固 定 資 産	151,157	51.7	136,642	47.7	133,562	46.8
有形固定資産	86,506		86,634		—	
無形固定資産	4,415		4,453		—	
投資その他の資産	60,235		45,554		—	
資 産 合 計	292,617	100.0	286,388	100.0	285,211	100.0
(負債の部)						
I 流 動 負 債	63,499	21.7	65,015	22.7	66,235	23.2
支払手形及び買掛金	26,370		25,148		—	
短期借入金	12,560		12,693		—	
その他の	24,568		27,172		—	
II 固 定 負 債	20,538	7.0	25,338	8.8	22,903	8.1
長期借入金	1,919		4,506		—	
退職給付引当金	14,873		17,184		—	
その他の	3,745		3,647		—	
負 債 合 計	84,037	28.7	90,353	31.5	89,139	31.3
(少数株主持分)						
少 数 株 主 持 分	15,192	5.2	13,268	4.7	14,577	5.1
(資本の部)						
I 資 本 金	31,117		31,117		—	
II 資 本 剰 余 金	40,768		40,739		—	
III 利 益 剰 余 金	131,358		121,770		—	
IV その他有価証券評価差額金	908		1,299		—	
V 為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 8,339		△ 9,807		—	
VI 自 己 株 式	△ 2,426		△ 2,354		—	
資 本 合 計	193,386	66.1	182,766	63.8	181,494	63.6
負債、少数株主持分 及び資本合計	292,617	100.0	286,388	100.0	285,211	100.0

(注)前年同四半期実績については、大区分のみの開示となっています。

(添付資料)

## 2. 要約連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第3四半期		前第3四半期		前連結会計年度	
	自平成16年4月1日 至平成16年12月31日		自平成15年4月1日 至平成15年12月31日		自平成15年4月1日 至平成16年3月31日	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
		%		%		%
I 売 上 高	187,403	100.0	181,078	100.0	238,847	100.0
II 売 上 原 価	83,470	44.5	81,801	45.2	108,695	45.5
III 売 上 総 利 益	103,933	55.5	99,276	54.8	130,151	54.5
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	89,270	47.7	86,452	47.7	113,756	47.6
IV 営 業 外 収 益	14,662	7.8	12,824	7.1	16,394	6.9
V 営 業 外 費 用	6,958	3.7	7,260	4.0	8,550	3.6
VI 特 別 利 益	1,076	0.5	1,529	0.9	1,801	0.8
VII 特 別 損 失	20,544	11.0	18,555	10.2	23,144	9.7
税金等調整前四半期(当期)純利益	3,900	2.1	6,105	3.4	6,406	2.7
法人税等	2,832	1.5	2,527	1.4	3,957	1.7
少数株主利益	21,611	11.6	22,133	12.2	25,592	10.7
四半期(当期)純利益	7,981	4.3	7,982	4.4	9,078	3.8
	1,484	0.8	1,422	0.8	1,430	0.6
	12,146	6.5	12,729	7.0	15,083	6.3

	当第3四半期 (百万円)	前第3四半期 (百万円)	前連結会計年度 (百万円)
1. 営業外収益の主要項目			
受取利息	790	944	1,093
ロイヤリティ収入	2,207	1,816	2,563
持分法による投資利益	2,554	2,589	2,710
2. 営業外費用の主要項目			
支払利息	186	291	327
3. 特別利益の主要項目			
厚生年金基金代行返上益	-	5,907	5,907
退職給付過去勤務債務取崩益	※ 3,653	-	-
※連結財務諸表提出会社の確定給付型新企業年金制度への移行に伴うものです。			
4. 特別損失の主要項目			
退職給付引当金繰入額	1,887	2,350	3,032
原材料廃棄損	696	-	-

(添付資料)

3. 要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第3四半期	前連結会計年度
	自平成16年4月1日 至平成16年12月31日	自平成15年4月1日 至平成16年3月31日
	金 額	金 額
<b>I. 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期(当期)純利益	21,611	25,592
減価償却費	5,933	7,984
諸引当金の増減額	△ 2,561	△ 693
受取利息・受取配当金	△ 954	△ 1,126
持分法投資利益	△ 2,554	△ 2,710
その他損益	2,698	2,804
売上債権の減少(△増加)額	△ 3,382	△ 2,579
たな卸資産の減少(△増加)額	△ 1,748	△ 5,524
仕入債務の増加(△減少)額	1,184	△ 538
その他資産負債による増減額	△ 1,142	2,194
そ の 他	△ 174	△ 172
小計	18,911	25,230
利息及び配当の受取額	1,532	1,440
法人税等の支払額 他	△ 9,697	△ 8,572
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,746	18,098
<b>II. 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による増減額	555	1,740
固定資産の取得による支出	△ 7,007	△ 7,752
固定資産の売却による収入	354	1,703
投資有価証券の取得による支出	△ 13,288	△ 5,301
そ の 他	△ 50	△ 52
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 19,436	△ 9,662
<b>III. 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純減少額	△ 240	△ 2,334
長期借入金返済による支出	△ 2,937	△ 1,055
自己株式の取得による支出	△ 104	△ 2,043
配当金の支払額	△ 2,616	△ 2,626
そ の 他	411	△ 315
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,488	△ 8,375
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	261	△ 2,802
V. 現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△ 13,916	△ 2,741
VI. 現金及び現金同等物期首残高	75,648	78,390
VII. 現金及び現金同等物期末残高	61,732	75,648

(注)四半期業績の開示は当期から実施しているため、前年同四半期実績については記載していません。

(参考1) 当該四半期の業績を事業の種類別ごとに示すと次のとおりです。

当第3四半期(自平成16年4月1日 至平成16年12月31日) (単位:百万円)

	飲料および食品 製造販売事業	医薬品製造 販売事業	そ の 他 事 業	計	消去又は全社	連 結
売 上 高	163,886	12,044	11,472	187,403	—	187,403
営 業 費 用	144,893	10,040	9,869	164,803	7,937	172,741
営業利益(又は損失)	18,992	2,003	1,603	22,599	△ 7,937	14,662

前第3四半期(自平成15年4月1日 至平成15年12月31日) (単位:百万円)

	飲料および食品 製造販売事業	医薬品製造 販売事業	そ の 他 事 業	計	消去又は全社	連 結
売 上 高	157,023	12,210	11,843	181,078	—	181,078
営 業 費 用	—	—	—	—	—	—
営業利益(又は損失)	—	—	—	—	—	—

前連結会計年度(自平成15年4月1日 至平成16年3月31日) (単位:百万円)

	飲料および食品 製造販売事業	医薬品製造 販売事業	そ の 他 事 業	計	消去又は全社	連 結
売 上 高	206,423	18,181	14,242	238,847	—	238,847
営 業 費 用	184,346	13,045	13,722	211,114	11,338	222,452
営業利益(又は損失)	22,076	5,136	520	27,732	△ 11,338	16,394

(注)売上高以外の四半期業績の開示は当四半期から実施しています。

(参考2) 当該四半期の業績を所在地別ごとに示すと次のとおりです。

当第3四半期(自平成16年4月1日 至平成16年12月31日) (単位:百万円)

	日 本	米州地域	アジア・ オセアニア地域	ヨーロッパ地域	計	消去又は全社	連 結
売 上 高	156,425	17,268	7,897	7,656	189,247	△ 1,844	187,403
営 業 費 用	142,504	12,258	6,080	5,804	166,648	6,093	172,741
営業利益(又は損失)	13,920	5,010	1,816	1,852	22,599	△ 7,937	14,662

前第3四半期(自平成15年4月1日 至平成15年12月31日) (単位:百万円)

	日 本	米州地域	アジア・ オセアニア地域	ヨーロッパ地域	計	消去又は全社	連 結
売 上 高	150,676	17,452	6,427	6,522	181,078	—	181,078
営 業 費 用	—	—	—	—	—	—	—
営業利益(又は損失)	—	—	—	—	—	—	—

(注)所在地間の取引については相殺消去しています。

前連結会計年度(自平成15年4月1日 至平成16年3月31日) (単位:百万円)

	日 本	米州地域	アジア・ オセアニア地域	ヨーロッパ地域	計	消去又は全社	連 結
売 上 高	202,955	22,204	8,757	9,006	242,924	△ 4,076	238,847
営 業 費 用	184,864	16,603	6,549	7,173	215,191	7,261	222,452
営業利益(又は損失)	18,090	5,600	2,208	1,832	27,732	△ 11,338	16,394

(注)売上高以外の四半期業績の開示は当四半期から実施しています。

[売上高に関する補足説明]

・飲料および食品製造販売事業部門

乳製品については、主力商品である乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト400」が引き続き好調に推移したほか、平成16年4月にパッケージデザインをリニューアルした、のむヨーグルト「ジョア」も売り上げを伸ばしました。

また、平成16年11月に発売した新商品で、血圧降下作用のある「GABA(γ-アミノ酪酸)」を含み、血圧が高めの方に適した乳製品乳酸菌飲料「プレティオ」も好調なスタートを切りました。

しかしながら、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」をはじめとした他の乳製品の売り上げが前年同期を下回るなど、乳製品全体としては厳しい営業展開を余儀なくされました。

ジュース・清涼飲料については、主力商品である「タフマン」「タフマンV」をはじめとして、平成16年3月に全国発売した「黒酢ドリンク」や、豆乳飲料「ラックミー」など、健康機能性飲料がお客さまの支持をいただいて大きく売り上げを伸ばしました。また、キリンビバレッジ株式会社との自動販売機における製品相互販売の効果もあってソフト飲料の売り上げも伸びており、引き続き好調に推移しています。

海外については、米州地域で前年同期を下回っているものの、アジア・オセアニア地域では中国およびインドネシアが大きく伸長し、またヨーロッパ地域も順調に推移したことから、全体では前年同期を上回る実績となりました。

なお、平成16年6月にニュージーランド、9月にアイルランドで販売を開始したほか、中国において8月に上海ヤクルトを設立し、12月には中国でのヤクルト事業を統括する会社「養楽多(中国)投資有限公司」の設立を上海市に申請しました。

海外の販売実績は、平成16年度の一日当たり平均販売本数で約1,489万本となっています。

・医薬品製造販売事業部門

医薬品については、国内外において「カンプト注」に重点をおいた販売活動を展開しており、特に海外向けの売り上げが平成16年10月以降、大きく伸長しました。その結果、前年同期はわずかに下回ったものの、上半期の遅れをとり戻しつつあります。

・その他事業部門

化粧品については、平成16年9月にリニューアルを実施した基礎化粧品「リベシィ」シリーズや、追加商品を発売した「ポッシュママ」シリーズは売り上げを伸ばしたものの、他の商品の売り上げは減少し、全体としては前年同期をわずかに下回る実績となりました。

(参考3)平成17年3月期第3四半期売上高(個別)の状況は次のとおりです。

(単位:百万円)

	平成17年3月期 第3四半期	平成16年3月期 第3四半期	対前年同 四半期増減率	参考 平成16年3月期
売上高	百万円 118,758	百万円 118,642	% 0.1	百万円 157,466

(品目別内訳)

(単位:百万円)

	平成17年3月期 第3四半期	平成16年3月期 第3四半期	対前年同 四半期増減率	参考 平成16年3月期
乳製品	59,070	60,495	△2.4	79,307
ジュース・清涼飲料	35,889	33,669	6.6	43,779
化粧品	5,345	5,350	△0.1	6,752
医薬品	12,044	12,210	△1.4	18,181
その他	6,409	6,916	△7.3	9,446
合計	118,758	118,642	0.1	157,466

以上